

平成26年度 奈良県指定文化財指定諮問一覧

種 別	番号	名 称	員数	所 在 地	所有者	備 考
有形文化財	1	にほんせいこうかい なら きりすときょうかい 日本聖公会奈良基督教会	2棟	奈良市登大路町4 4番地1、2	にほんせいこう 日本聖公 会奈良基 督教会・ しんあいがくえん 親愛学園	建造物
	2	もくぞう いのえないしんのう ぎぞう 木造井上内親王坐像	1軀	五條市靈安寺町2 206番地	ごりようじんじや 御霊神社	彫刻
	3	しほんぼくが いせまんだら ず 紙本墨画伊勢曼荼羅図	2幅	奈良市菩提山町1 57番地	しやうりやくじ 正暦寺	絵画
	4	こくしつさいしきはながただいだん 黒漆彩色華形大壇	1基	天理市柳本町50 8番地	ちやうがくじ 長岳寺	工芸品
	5	しほんぼくしよしぎさん じしぎちやう 紙本墨書信貴山寺資財帳	1巻	生駒郡平群町信貴 山2280番地	ちやうごそんし 朝護孫子 寺	古文書
	6	くど ごうふん 久渡3号墳出土品	銅鏡1面、 鉄剣・鉄槍 2口、 鉄鏃4本、 土師器一括	北葛城郡上牧町大 字上牧3350番 地 (上牧町役場)	上牧町	考古資料
民俗文化財	7	だだどう おにめん 陀々堂の鬼面	4面	五條市北山町93 0番地の2 (五條文化博物館)	ねんぶつじ 念仏寺	有形民俗

※諮問物件 7 について、員数を変更。「3面」→「4面」。

7 ^{ただどう} 陀々堂の鬼面 4面 [有形民俗文化財]

[所在地] 五條市北山町930番地の2（五條文化博物館）

[所有者] 五條市^{おおづちょう}大津町127番地 念仏寺

[法 量] （父鬼面）全長60.1cm、（母鬼面）全長51.4cm、（子鬼面）全長46.4cm
（鬼面） 全長27.5cm

[時 代] 室町時代中期

[概 要]

五條市大津町の念仏寺の本堂、通称「陀々堂」では五穀豊穰、悪霊調伏の年頭祈願である修正会結願^{しゅしやうえけがん}の行事として毎年1月14日に鬼はしりがおこなわれる。念仏寺は平安時代末期に東大寺領として記録に現れる坂合部郷全体の郷寺であり、現在は阪合部14地区でこの行事が運営されている。大般若経の転読、昼の鬼はしり、^{さいとうごま}柴燈護摩に続いて、赤鬼面をつけ右手に斧を持った父鬼、青鬼面をつけ^{ねじき}捻木を持った母鬼、赤鬼面をつけ槌を持った子鬼の3人の鬼が松明を手に堂内をまわる夜の鬼はしりがおこなわれる。文明18年（1486）の鬼面の墨書銘や明応5年（1496）の『坂合部郷定書』^{さか いべごうさだめがき}からは15世紀中頃には鬼面をもちいたオコナイ行事が成立していたことが推測される。また、安永2年（1773）に記されたとされる「大津村^{むらかがみめいさいちやう}村鑑明細帳」には鬼はしりの詳細な次第が記録されている。

昭和35年まで使用されていた鬼面3面はいずれも針葉樹の一材で、赤鬼である父鬼面は阿形で二本角、青鬼である母鬼面は吡形で一本角、子鬼面は阿形で二本角ある。いずれも墨書銘から文明18年（1486）に念仏寺別当であった^{らいちやう}頼澄の注文によって坂合部郷^{やまかげむら}山陰村の右兵衛二郎が製作したものであることがわかる。また、上記以外に本尊の面であると伝えられる、同時期の製作と推測される鬼面が行事の間、阿弥陀如来の須弥壇前に安置されていた。

これらの鬼面は村の修正会でもちいられてきた、15世紀の製作になる鬼面として貴重である。なお、「陀々堂の鬼はしり」は平成七年度に国の重要無形民俗文化財に指定されている。



父鬼面



母鬼面



子鬼面



鬼面